

## 所蔵品紹介

朝儀図屏風のうち

「小朝拝」 土佐光起筆

六曲一雙のうち右隻

学芸員 木下 明日香

本屏風は二〇〇八年に茶道資料館で行われた「裏千家所蔵絵画展」でも展示され、記憶に残っている方も多いかもしれません。小朝拝とは元日に天皇に拝謁し、祝いの詞を申し上げる儀式のこと、公卿・殿上人・六位の者



が一行に並び天皇に拝謁する様子が描かれています。

一見、規則正しく並んでいるように見える殿上人の姿も、よく見ると衣服の翻り方など少しずつ変化に富み、また、拝謁する人を見学する人々の顔も表情豊かに描かれています。土佐光起（一六一七-九一）の画技の高さがうかがえる作品です。

作者の土佐光起は土佐派の中興の祖と称されます。土佐派は大和絵の最大の画派で、十五世紀後半から十六世紀はじめに活躍した光信が、宮廷絵所預および幕府の御用絵師となり、土佐派の基盤を確立して後、幕末までその画系は続いていきますが、一時、戦国末期の動乱で後継ぎが若くして没するなど低迷期を迎えます。永禄十二年（一五六九）以降失われていた宮廷の絵所預へと復帰し、土佐派を再興したのが光起です。

通常、画家のサインである落款は外側になされる事が多いので、この「小朝拝」が描かれた一隻は右隻と考えられます。一方の左隻は「朔旦冬至」をテーマに描かれたもので、朔旦冬至とは、陰暦の十一月一日がちょうど冬至の日にあたる事を言い、約十一年に一回到来します。今年二〇一四年はちょうどその年にあたり、この一隻についてはまた改めてご紹介をしたいと思います。

## 新刊のご案内

茶道文化研究 第六輯 特集『山上宗二記』を会員の皆様に割引価格で販売いたします。

天正年間の茶を記した茶の湯伝書として、これまで非公開であった今日庵文庫所蔵『山上宗二記』の全文掲載に加え、同書における研究の現在、思想、茶室に関する論文を収録しています。

（論文編）

- ・神津朝夫氏 『山上宗二と『山上宗二記』』
- ・八尾嘉男氏 『山上宗二記』にみる山上宗二の茶人観
- ・桐浴邦夫氏 『山上宗二記』にみる茶室
- ・谷端昭夫氏 『裏千家今日庵文庫架蔵『山上宗二記』について』書誌と解題

（資料編）

- ・影印翻刻『山上宗二記』今日庵本
- ・翻刻『珠光一紙目録』
- ・翻刻『山上宗二記』天正十六年五月林阿弥宛
- ・翻刻『山上宗二記』天正十七年二月江雪斎宛

※定価二、一六〇円（税込）のところ、会員の皆様には定価一、七二〇円（税込）で販売いたします（送料別）。

※購入を希望される方は、電話か葉書で必要事項（会員番号、名前、郵便番号、住所、電話番号、冊数）を明記の上、お申込みください。

※裏千家センター受付でも販売しております。



（翻刻）

小朝拝

関白以下諸卿立無名門前

藏人頭出向

関白奏事由

天皇出御於清涼殿庇御椅子

次諸卿各次第進立清涼殿東庭拜舞

公卿一列

殿上人一列

六位一列

各舞踏「自下鶴舞列退入

（落款・印章）

落款「土佐将監光起筆」

印章「藤原」朱文方印